



# 信楽園病院だより



第166号 平成27年1月1日 発行

〒950-2087 住所 新潟市西区新通南3丁目3番11号 TEL 025-260-8200 FAX 025-260-8199

E-mail [renkei@shinrakuen.com](mailto:renkei@shinrakuen.com) ホームページアドレス <http://www.shinrakuen.com>

## 急性高山病罹患の貴重な私の体験

信楽園病院 院長 宮崎 滋

新年あけましておめでとうございます。

平成26年4月に新院長となってから早くも9ヶ月が経ちました。院長職として病院運営のリーダーとして職員の皆さんの力を借りながら話し合いを深め、あっという間の9ヶ月だったと感じております。昨年は地域包括ケア病棟を設けました。地域包括ケア病棟は、急性期の治療が終了し在宅復帰がスムーズにできるよう経過観察やリハビリを行い支援しています。住み慣れた地域で人生最期の暮らしが送れるよう、地域の医療機関・施設などと連携を図り対応しているところです。



さて、昨年の学会で貧血やHypoxia inducible factor (低酸素誘導因子；酸素供給が不足した時に作られるタンパク質)の講演を聴いていたときに、2010年の米国コロラド州デンバー（標高1600m）での学会終了後、デンバーの南約100kmにあるパイクスピーク（標高4301m、ほぼ花崗岩でできている）という米国では有名な高山に観光に行った時のことを思い出しました。ここには、パイクスピーク・コグ（コグ；

歯車の意）鉄道があり、全米最高峰の登山鉄道（ディーゼル鉄道）と言われています。この鉄道に乗ると、約1時間15分でパイクスピークの頂上まで運んでくれますが、こんな短時間で標高4301mまで上る（連れて行かれる？）とほぼ高山病になります。私の症状は、脳血管の拡張による頭痛、小脳失調（めまい、千鳥足歩行）で、急性アルコール中毒に似ていました。肺水腫、意識障害などの激しい症状は出現しませんでした。下りの鉄道では、ほぼ全員が爆睡状態でこれも高山病の症状の一つの様です。まさか自分が高山病になるとは考えていませんでしたし、症状も知りませんでした。自覚症状を覚えておき、日本に帰ってから教科書を調べるとまさに高山病の症状でした。日本には存在しない標高の山なので、貴重といえば貴重な体験でした。

また、昨年の同じ学会で高山、低酸素血症が人体に及ぼす影響を調べるための医学研究施設が1900年代初めにパイクスピークに造られたという話も聞き、なるほどと納得しました。ちなみに高山に住んでいる人々は、酸素を十分に末梢組織に供給するため貧血の逆の病態である多血症になります。私の独り言にお付き合いいただき恐縮です。

本年もグローバルな視点を活かしながら院内の様々な課題に取り組み、地域に根ざした病院として役割を果たしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。